

Day

3

タイトル

2. パネルディスカッション: アフリカの廃棄物管理分野の投資促進におけるACCPの役割

発表者

モデレーター: JICA地球環境部 部長 武藤 めぐみ  
アフリカ開発銀行 首席衛生専門官 Ousseynou Guene  
JBICパリ事務所 上級職員 横堀直子  
国連環境計画アフリカ事務所 化学物質・廃棄物 地域調整官 Abdouraman Bary  
国連ハビタットアフリカ事務所 上級居住調査官 Thomas Chiramba 氏  
エチオピア国アジスアベバ市 廃棄物リサイクル・処分プロジェクトオフィス 廃棄物リサイクル部長  
Bantihun, Kassahun Tsegaye

要約

冒頭、モデレーター武藤氏が、アフリカ開発銀行などの開発金融機関が提供できるツールの概要を説明した。続けて、Guene氏は、財政的に実行可能なプロジェクト(financially viable project)には健全な環境が必要であり、良く設計されたプロジェクトには、廃棄物フローを踏まえた「都市を包括するプロジェクト(city-wide project)」や「複数課題を扱うプロジェクト(mix-solution projects)」が含まれることを説明した。Bary教授は、アフリカの廃棄物管理プロジェクトが直面する典型的な制約として、将来のキャッシュフローが読めないことや、ライフサイクルコストの評価が不適切であること、コスト管理・運用の専門知識やリスク管理が不十分であることを挙げた。

横堀氏は、発電付焼却施設(WtE)の官民連携(PPP)にかかる事例について発表し、廃棄物の量・質やコストについて現状及び将来予測に基づく検討の重要性を強調した。Kassahun氏は、エチオピアの処分場修復や廃棄物発電案件を紹介。Chiramba氏は、廃棄物管理にかかる投資の社会的および付随的な価値は、雇用の創出や多様な都市の居住性などを踏まえ適切に評価されるべきだと付け加えた。最後に、ACCPの役割として知見共有、投資促進、パートナーとの協力関係強化などを期待するとした。